NAME

bsdio – input/output library functions

SYNOPSIS

```
#include <bsdio.h>
```

DESCRIPTION

BSDIO は単純なバッファ付き入出力インタフェースを与える．入力と出力は論理的なデータストリームにマップされ, 物理 I/O の特徴は隠される．BSDIO により提供される関数の一覧は最後に付してある．詳細な情報はそれぞれの man pages から得られる．

ストリームは物理レベルへのアクセス関数に関連付けられて作成される．作成されたストリームにはその入出力位置を示す *file position indicator* が付され, その初期値はファイルの先頭(byte 0) である．position indicator はそれ以降の読み込み, 書き出し, 位置移動の要求を処理する都度更新される．

ストリームと物理入出力関数の関連付けは *close* することで解除される．ストリームがクローズされる前には, 出力ストリームはフラッシュされる(バッファされている, まだ書き出されていないデータが物理関数により転送される). ストリームがクローズされた後は `BFILE` オブジェクトへのポインタは不定(ごみ)になる．

標準入出力関数とは異なり BSDIO は `exit`(3), `_exit`(2) 等が呼ばれた時には何も行わない．

実装では “text” と “binary” ストリームは区別されない．実の所, ストリームは常に binary ストリームである．ストリームに対してのいかなる変換や詰め物も行われない．

BSDIO では入出力は常にバッファされる．特に出力が直ちに物理出力関数により転送される必要がある場合は `bflush`(3) を呼ぶことでバッファのフラッシュを要求できる．

リンクエディタは –lbsdio オプションにより, このライブラリをサーチする．

以下の man pages の SYNOPSIS セクションではどのインクルードファイルが使われるべきかが示される．それらでは, 関数の宣言と必要となる外部変数の宣言を行っている．

SEE ALSO

`close`(2), `open`(2), `read`(2), `write`(2)

BUGS

BSDIO は, `vfork`(2) などの呼び出しにより, 好ましくない動作をすることがある．

LIST OF FUNCTIONS

Function	Description
bclose	close a stream
bflush	flush a stream
bgetc	get next character or word from input stream
bgets	get a line from a stream
bputc	output a character or word to a stream
bputs	output a line to a stream
bread	binary stream input/output
bseeko	reposition a stream
btello	reposition a stream
bunopen	open a stream
bwrite	binary stream input/output
brewind	reposition a stream